

2020年5月8日

報道関係者 各位

(公財) 世界宗教者平和会議日本委員会

プレスリリース #164

WCRP/RfP 日本委員会が後援・医療従事者の悩みや話を聴く窓口を開設

現在、医療現場では多くの医療機関スタッフが新型コロナウイルスの予防や治療にあたっています。しかし、診療には感染リスクがとれない、感染者への対応に多くの労力がとられることから、診療に携わる医療従事者はさまざまな精神的な苦痛や困難を抱え、精神的なケアを必要としていることが報道機関でも頻繁に取り上げられています。

このような状況を受けて4月20日に、在宅医や臨床宗教師らが世話人となって「感染症と闘う医療従事者の話を聴く会」を立ち上げました。心理専門職（公認心理師、臨床心理士）、認定臨床宗教師、スピリチュアルケア師が、インターネットのテレビ電話システム「ZOOM」を使用して、医療従事者の悩みや不安を傾聴します。同会は5月1日よりこの傾聴サービスを開始し、医療従事者は無料でサービスを受けることができます。

同会は、医師で上智大学大学院実践宗教学研究科博士後期課程に在籍する井口真紀子氏が世話人代表、井川裕覚氏（認定臨床宗教師・スピリチュアルケア師・上智大学大学院実践宗教学研究科博士後期課程在籍）が世話人副代表を務め、島菌進教授（上智大学大学院実践宗教学研究科）、川野泰周氏（精神科医・僧侶）らが世話人を務めています。WCRP/RfP 日本委員会は同会を後援しています。

WCRP 日本委員会は、2011年の東日本大震災以降、東北大学における実践宗教学寄附講座を5年間支援し、臨床宗教師育成に努めてきました。臨床宗教師は、布教や伝道を目的とせず、相手の価値観を尊重しながら、宗教者としての経験をいかして人々の苦悩や悲嘆に寄り添うケアをめざし、さまざまな宗教者が連携・協力して活動しています。

「感染症と闘う医療従事者の話を聴く会」は、心理職、宗教者、スピリチュアルケアワーカーの多様な職種の人々が傾聴者として協力し、最前線で感染症の診療にあたる医療従事者の不安や苦しみを傾聴によって和らげる精神的ケアの試みです。それは新型コロナウイルスによって社会の分断が危惧される中で、医療の現場で献身される人々を支える活動を、協働と連帯の精神によって実施するという意義を持つものです。

さまざまな団体との対話やネットワーキングを通して平和な社会の構築をめざすWCRP/RfP 日本委員会は、この取り組みに心より賛同し、同会を後援します。

詳細は「感染症と闘う医療従事者の話を聴く会」ホームページ参照。

<https://careforcovidfighte.wixsite.com/caremedical>

<お問い合わせ先>

(公財) 世界宗教者平和会議 (WCRP/RfP) 日本委員会 (東京都杉並区和田 2-7-1 普門メディアセンター 3 階)

広報担当：三善（携帯 080-2003-2031）、木村（携帯 090-2408-7117）